

社寺名 伊豫稻荷神社 (伊予市稻荷 1236 番地)

奉納者 岩田源介 (清興)

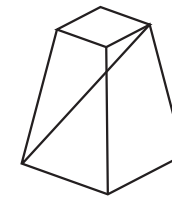
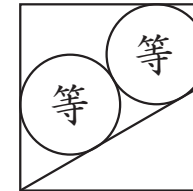
奉納年 寛政9年9月 (1797年)



算額

今有如圖方面内隔斜容  
等圓二箇只云方面若干  
問等圓徑幾何  
乃名用  
天元

答曰 依左術得

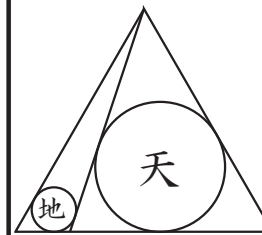


今有如圖位上左角斜下右  
角斜截之法臺只云上方  
面若干又云上積若干又  
云高若干問下方面幾何  
乃名用  
開方

答曰 依左術得

今有如圖三角面内隔斜  
容天圓地圓只云天圓徑  
若干又云地圓徑若干問  
三角面幾何

答曰 依左術得



浪華之數家者松岡某以各三条之好問  
諸々術其答術如左

敬曰

知等圓徑術曰置方面累四十八段平方開之  
以減面和八段之内余折半之得等圓  
徑合問

知下方面術曰置上積三段以高除之内減上  
方面累余寄位以上方面乘之爲實以寄  
位與上方面累之差 爲法實如法而一則  
得下方面合問

知三角面術曰置併天地圓徑以三角中勾  
率乘之寄位自之得内減天圓徑地圓徑  
相乘二段余開平方見商加入寄位得三  
角面合問

寛政九年丁巳秋九月

關流算學新谷家士

岩田源介清興謹考

印

印

### 解説

なかほどに「浪華の數家松岡某が三つの好このみ(問題)を提出。それに「左の如く答える」とあり、その横に「敬曰」と書き、解答をしている。

松岡某は大阪で盛んであった詫間流の松岡能一と思われる。新谷藩には兵頭正甫が伝える詫間流が入っていたので、その問題を見て手紙の形式で解答を奉納した貴重な額である。

### 問題文

- (右) 図のように、正方形(方面)を線(斜)で隔て、等円2個を入れる。正方形の一辺が、既知(若干)のとき、等円の直径はいくらか。
- (中) 図のように、左上の角錐を右下の角錐に載せて出来る四角錐台(法台)がある。上の正方形の一辺が既知(若干)、左上の角錐の体積(上積)が既知(若干)また、高さが既知(若干)のとき、下の正方形の一辺の長さはいくらか。
- (左) 図のように、正三角形(三角面)を線(斜)で隔て、天円と地円の直径を入れる。天円の直径が既知(若干)のとき、三角形の一辺の長さはいくらか。